



君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ
平成28年8月25日(木)

Vol.334

小櫃地区ふるさと祭り

秋元 秀夫

8月21日恒例の小櫃ふるさと祭りが開かれました。この祭りは今から42年前、お盆にふるさとへ帰って来られる人々が折角帰ってきたのに、親戚・旧友の人達とも会える機会が無くて寂しいと言う声が聞かれたので柳井範佳氏らが一念発起されて「ふるさと祭り」を始められました。当時は交通の便も悪く、遠くの地へと行かれた人達のことも考えて、祭りは3日間も続けて行われたと聞いております。

当時小櫃は7千人近い人でしたが、小櫃中学校校庭は人・人・人で埋り3千人以上の人が毎日毎晩押しかけて大成功でしたと柳井さんは述懐されておられました。この祭りを支え続けている小櫃商工会は大型店不況によって半減し、商店会の実行委員であった青年部は会員も激減して一昨年この祭りをもって終わりにしたいとの会長挨拶に対して私は壇上から「歴史的にもこの祭りはかつての商店会の祭りから小櫃市民の祭りとして多くの市民から期待されたくさんの支持を頂いております。次の時代へと小さな子供らが継承してくれている伝統芸能を守り、この大観衆の絆の和は自治会を始めとして各種団体、市民の方々に来年も引き続いて小櫃の誇りと力として頂きたい」とお願い申し上げ大拍手を頂きました。

お蔭様で昨年、今年と順調に実行されて参りました。

小櫃の祭りの特徴は老若男女にわたった細かい心配りがなされたプログラムや出店協力があります。数年前からこの田園花火は童画に見られるような親しみがあります。改めて小櫃の方々へ御礼と敬意を表します。来年は更に市内外の方々をお誘いして下さり、よりにぎやかな輪を広げて頂きたいと願っております。

小櫃の広い田園地帯を眺めた時、ここに東南アジアから多くの農民を移住させ、耕作放棄された豊かな農地を再生させ、日本の豊かな土壌、軟水、季節で育てた農産物を彼らの国の人々へ輸出できないものか？青葉高校は日本の農業技術を東南アジアの子供達に教える学校としてもっと活用したいと考えたのは沿線で栄えている駅は高校、大学がある駅と駅前商店街でした。昨日私は毎年恒例になった春秋の季節には必ず小湊鉄道、いすみ鉄道の小さな旅を致して参りました。明日は木更津から富津公園バスで往復し、明後日は久留里線に乗って久留里楽市楽座へ行きます。東京の友人が、久留里の素晴らしい商店街を写して帰ったら「電柱」ばかりの町となっていたとこぼしておりました。地震、災害を考えると電柱の倒壊は交通遮断し停電は生活に大きな被害を与えます。観光を目指す街には電柱とシャッターは禁物だと私は思っております。

「ここには何もないのであります」とポスターで宣伝するいすみ鉄道「トロッコ電車、里山を駆ける」の小湊鉄道、「お化け電車」の銚子電鉄があります。アクアラインと直結できる久留里線を廃線させない為にも一層のこと民間鉄道化してレジャー、スポーツ、農園、宅地化を進めることは他の3社よりずっと有利な位置にあると判断いたしております。豊かな君津は大型店誘致ではなく多くの生産者が生涯かけて働き住む土地にしたいものです。